

## 第6学年 道徳科 学習指導案

### 【本時の主張】

本時は、法やきまりの意義を理解し、進んで守ろうとする実践意欲を育む授業である。しかし、6年生の児童にとって、法やきまりを守ることとはどういうことなのか、また、なぜ守らなければならないのか、向き合って考える機会や経験が少なく、「きまりだから」「法律で決まっているから」という表面的な理解に留まっていると考えられる。そこで、祖父の危篤の知らせを受けた家族が面会に向かう途中で渋滞に巻き込まれ、路側帯を走ることに葛藤する家族の様子が描かれた教材を用いて、次の二つの手立てを講じる。

1. 路側帯を走ろうと思うかと問い、心情を心の数直線で表させることで問題を自分事として捉えさせたり、誰もが法を破ってしまいそうになる弱さをもっていることに気付かせたりする。
2. 法を遵守した父の大切にしている考えについて、ピラミッドチャートを用いて考えを焦点化させていくことで、ねらいとする道徳的価値に迫らせる。

これらの手立てによって、児童は、法やきまりは自他の生命や安全・安心な生活を守るためにあることに気付き、進んで守っていききたいと思うようになる。

### 1 主題名 「法やきまりを守って」 【C-12】規則の尊重

#### 2 ねらいとする道徳的価値

##### (1) 主題(単元)の目標と評価

- 法やきまりを守ることの意義について理解する。 【道徳的価値の理解】
- 自他の生命や安全で安心な生活を守るために、法やきまりを進んで守ろうとする心情を養う。 【道徳的心情・道徳的判断力】
- 社会の一員であることを自覚し、自他の生命や権利を守りよりよい社会をつくらうとする実践意欲を育てる。 【道徳的実践意欲・態度】

##### (2) 指導の重点と構想(他の教育活動との関連)

	「主題名」・教材名	ねらい(○)と評価(■)	他の教育活動との関連
1 時間 目	「大切な権利」C-12 規則の尊重 ・世界人権宣言から学ぼう (「きみがいちばんひかるとき 6年」光村図書)	○自他の権利を大切にすることについて、世界人権宣言の中の「自由」とはどういうことか考える活動を通して、自分の権利だけを主張するのではなく自他の権利を尊重し合うことの大切さに気付き、互いの権利を大切にしようとする心情を育む。 ■自他の権利を大切にすることの意味や理解したことを基に、これからの自分の姿について記述している。(振り返り)	総合的な学習の時間 学級活動 ・係活動 児童会 ・委員会活動 ・クラブ
2 時間 目  (本時)	「法やきまりを守って」C-12 規則の尊重 ・ここを走れば (「きみがいちばんひかるとき 6年」光村図書)	○法やきまりを守る大切さについて、法を遵守した父の心情や大切にしていたことについて話し合う活動を通して、自他の生命や安全で安心な生活を守るためにあるという法やきまりの意義に気付き、法やきまりを進んで守ろうとする実践意欲を育てる。 ■法やきまりの意義について理解したことや今までの自分を振り返り、これからの自分の姿について記述している。(振り返り)	児童会 ・委員会活動

### 3 主題について

#### (1) 主題名 「法やきまりを守って」 【C-12】規則の尊重

#### (2) 主題設定の理由

##### ① ねらいとする価値について

児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そこで、社会の法やきまりのもつ意義について考えることを通して、法やきまりが個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあることを理解し、それを進んで守ろうとする精神を身に付けるように指導する必要がある。

第6学年のこの段階においては、社会生活を送る上で必要であるきまりや、国会が定めるきまりである法などを進んで守り従うという遵守の精神をもつところまで高めていく必要がある。また、自分の権利ばかりを主張していたのでは、社会は維持できないことについても具体的に考えを深め、法を守ろうとする態度を育成することが重要である。

そこで、本時では、法を遵守した父が大切にしていたことについて考えさせることで、法やきまりのもつ意義やそれを守ることの大切さに気付かせたい。そして、自らが社会を構成している一員であることを自覚し、自他の生命や安全で安心な生活を守るために進んで法やきまりを守ろうとする実践意欲を育てていく。

##### ② 児童について

児童はこれまでに、きまりは、みんなが気持ちよく生活するために協力して守らなければならない、ということについて理解している。身近なきまりといえば「学校の廊下や階段は走らない」「図書室では大きな声を出さない」などがある。こうした学校のきまりは「走ると危ないから」「図書室で大声を出すと迷惑だから」という理由で存在することは理解していても、他の人の安全で安心な生活を守るためにあるという考えには至っていない。事前に行ったアンケートで、きまりを破ってしまいそうになる時はどんな時か尋ねたところ「急いでいる時」や「他の人(友達)もやっていたから」との回答が多く見られた。こうした結果からも、きまりの意義について理解が深まっていない様子が伺える。

また、「法」について、その意義を深く考えた経験はほとんどなく、まだ意識は薄い。そのため、児童の中には、法やきまりはそれが「法律で決まっているから」「きまりだから」守らなければならないという表面的な考えで捉えている者も多い。

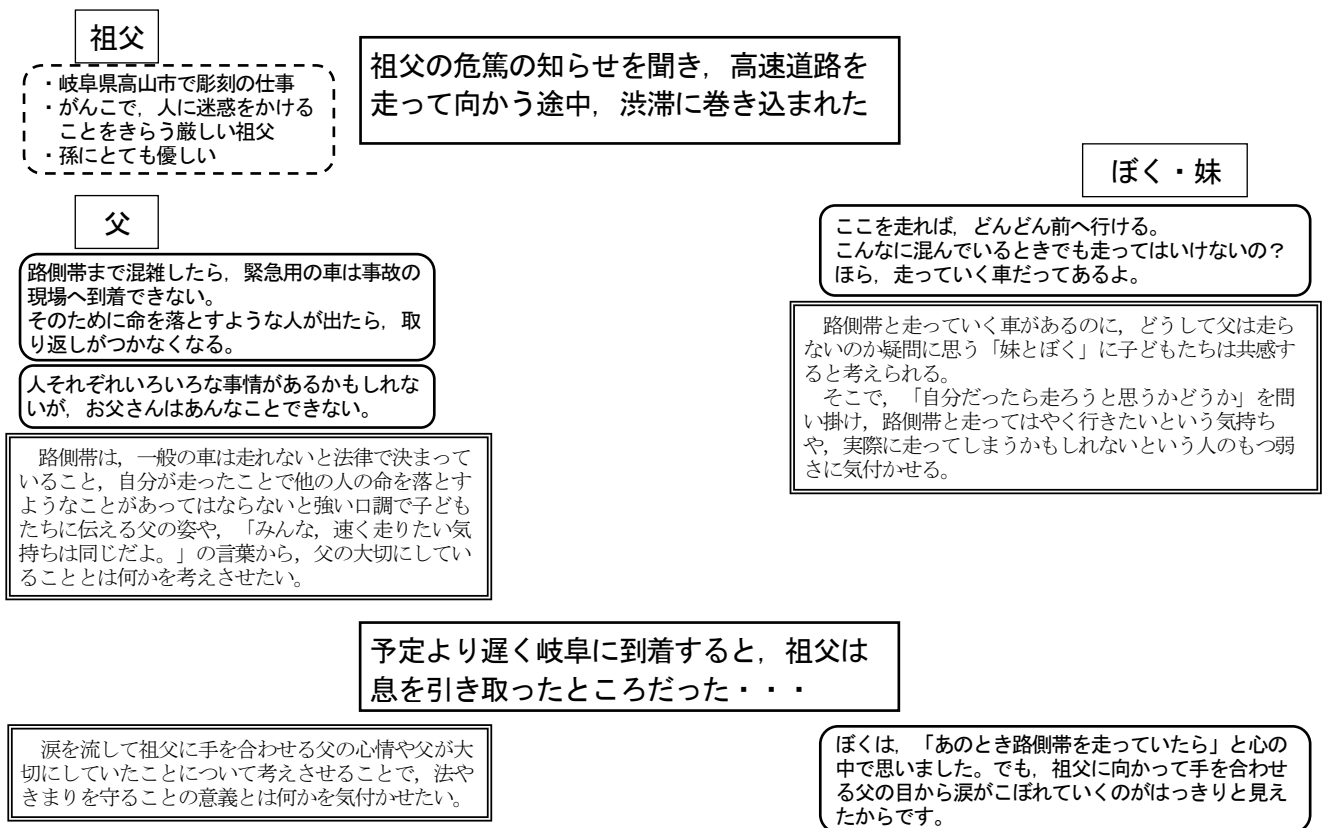
しかし、第6学年ともなれば、法やきまりは自他の生命や権利を守るために存在するのだということに気づき、行動していくことが大切である。そこで、実父の最期に一目会いたいと思いつつも法を遵守し、高速道路の路側帯を走ることはしなかった父の心情や大切にしていたことを考えさせることで、法やきまりの意義に気付かせ、進んで守ろうとする意欲を育みたい。

##### ③ 教材について 教材名「ここを走れば」(出典:「きみがいちばんひかるとき6年」)

本教材の前半は、祖父が倒れたとの知らせを受け、家族で急いで祖父のところへ向かう途中、高速道路が事故のため渋滞が発生し、足止めされる場面が設定されている。そして、路側帯を走っていく車を目にした妹とぼくが「こんなに混んでいる時でも、走ってはいけないの。」「ほら、走っていく車だってあるよ。」と、運転する父親に路側帯を走ることを促す様子が描かれている。法についての意識が薄い児童らにとって、妹やぼくの思いに共感できることは大いに予想される。そこで、自分も走ろうと思うか問い、法やきまりに対してどのように捉えているか自己を見つめさせる。更に「法を守るより家族の命の方が大事だから法を破っても仕方がないと思う」とか「他の人もしているからいいと思う」といった、人間の弱さについても引き出したい。

後半は、渋滞のため予定より遅い時刻に到着し、祖父の死に目に遭えなかった父たちの様子が描かれている。ぼくは「あのとき路側帯を走っていたら」と心の中で思うが、祖父に手を合わせる父の横顔を見た時、涙がこぼれていくのを見てはっとする。この時の父の心情や父が大切にしていたことについて考えさせ、自分勝手な行動から尊い人命を落とすことがあっては絶対にならないことや法は人々の命と安全な暮らしを守っているということに気付かせる。これまで単なる「法律だから」「きまりだから」という表面的な意識から「人の命や安全な生活を守るためだから」という本来の意義に気づき、法やきまりを進んで守ろうとする意欲が高まることを期待する。

#### ④教材分析図



#### 4 本時の計画

##### (1) 本時のねらい

法やきまりを守る大切さについて、法を遵守した父の心情や大切にしていたことについて話し合う活動を通して、自他の生命や安全で安心な生活を守るためにあるという法やきまりの意義に気づき、法やきまりを進んで守ろうとする実践意欲を育てる。

##### (2) 本時の構想

本時の具体的な手立ては、以下の通りである。

##### ①路側帯を走ろうと思うか問い、心情を心の数直線で表させることで問題を自分事として捉えさせたり、誰もが法を破ってしまいそうな弱さをもっていることに気付かせたりする。

危篤の状態の祖父に早く会いたいと思いながら車を走らせるが、高速道路で渋滞が生じる場面で、「自分だったら路側帯を走ろうと思うか」と問い、ロイロノートを用いて心の数直線で心情を表現させる。走ろうと思う気持ちはピンクで、走らないと思う気持ちを青で示させた後、教師の提出箱へ提出させる。全員が提出した後、一斉に提示し、意図的指名によって理由を伝え合わせる。心の数直線の色の割合をどのくらいにするか考えさせることで、問題を自分事として捉えさせる。



ここでは、法についての意識はまだ薄く、走ろうと思う（ピンク）という心情の割合が多く提示され、理由として「家族が危篤の時は、路側帯を走っていくべきだ」とか「緊急の時は仕方がない」などの考えが出されることが予想される。誰もが、家族を大切に思う気持ちがあり、自分自身の身勝手な理由から法やきまりを守れなくなりそうな時がある人間の弱さを持っていることに気付かせたい。

反面、走らないと思う（青）心情の理由についても取り上げ、「どんな理由にせよ、法律で決まっているから走ってはいけないと思う」や「おじいさんは、きまりを破って急いで走ってきたとしても喜ばないと思う」という考えを引き出し、様々な捉えがあることについても気付かせたい。

##### ②法を遵守した父の大切にしている考えについて、ピラミッドチャートを用いて考えを焦点化させていくことで、ねらいとする道徳的価値に迫らせる。

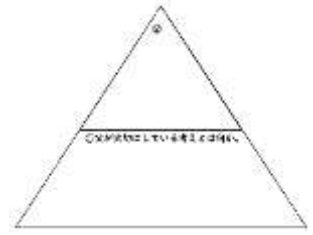
亡くなった祖父に対し、涙を流しながら手を合わせる父の姿が描かれた最後の場面で、父の心情や大切にしている考えについて考えさせる。ここでは、多様な考えを出させた上で、道徳的価値の理解を深めさ

せることをねらうために、ピラミッドチャートを用いる。

ピラミッドチャートの下段①には、「父が大切にしている考えとは何か」思いつくことを全て書かせる。

「おじいさんが悲しむから」という個人的な理由や「自分の身勝手な行動で人に迷惑をかけてはいけない」や「法律を守ることは他の人の命を守ること」という社会の一員としての思い、更には「人の命を落とすわけにはいかない」といった普遍的な思いなど、様々な考えを引き出したい。①で出された考えについて全体で話し合わせた後、とても納得した考えやその理由について問い、上段②に記入させる。

法を遵守した父が大切にしている考えについて多様な見方や考え方から焦点化させていく話し合いの過程で、法やきまりの意義に気付かせたい。



ピラミッドチャート

### (3) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価規準 ○留意点
<b>導入</b> 1 生活場面から問題を見つけ、課題をつくる。 (5分)	T1 こちらをご覧ください。この前、皆さんに法やきまりのことにについて聞いたアンケートの結果をまとめた表です。 C1 いろいろなきまりがあるな。 C2 知らない法律がある。 T2 私たちの周りには、たくさんの法やきまりがありますね。アンケートの結果から、気が付いたことはどんなことですか。 C3 きまりや法がたくさんある。 C4 急いでいる時に、つい破りそうになるという意見が多い。 T3 法やきまりがたくさんあって面倒だなと思うことはありませんか。 C5 ある。 C6 少し思うけど、ないと生活がぐちゃぐちゃになって大変なことになる。 T4 今日、みんなで考えてみたい課題はどうなりますか。 C7 法やきまりを守るには、どんな心が大切か。 C8 どうして法やきまりを守らないといけないのかな。	○子どもたちに事前に調査したアンケートの結果を提示する。 ○守れなくなりそうな時が誰にでもあることを共通理解し、人の弱さについても触れる。 ○きまりが多く面倒だと感じることはないかと揺さぶりをかけることで、問題意識を高めさせる。 ○追究に値する深い問いを意識させながら、本時の課題をつくらせる。
	<b>&lt;課題&gt;</b> どうして法やきまりを守らないといけないのかな。	
<b>展開</b> 2 教材と出合い、自己を見つめる。 (10分)	T5 おじいさんが倒れた知らせを聞いて、車に乗って会いに行く家族のお話です。みんなで考えていきましょう。 C9 自分のおじいちゃんのことを思い出して聞いてみよう。 T6 (前半部 P.129 の L4 で一旦止める)「ほら、走っていく車だってあるよ。」と、ぼくは言いました。この時のぼくは、どんな気持ちなのでしょう。 C10 路側帯を走っていきたい。 C11 早くおじいさんのところへ行きたい。 T7 皆さんだったら路側帯を走ろうと思いますか。 C12 少し思うかもしれないな。 T8 心の数直線を使って、走ろうと思う気持ちをピンク、走らないと思う気持ちを青で表してみましょう。 C13 僕は、法律を守ることよりも家族の命の方が大事だから、ピンクが 100%だよ。	○児童は、教科書を使わず教師が提示する場面絵を見ながら状況を捉えていく。 ○路側帯の使い方(道路交通法)について補助説明を加える。 ○前半部で一旦話を止め、路側帯を走ろうと思うかどうかを心の数直線で提示させる。心の数直線は、ロイロノート「資料箱」に入れておき、児童がすぐに使えるようにしておく。

<p>3 考えを広げ、深める。 (17分)</p>	<p>C14 走ろうと思う気持ちも少しは（20%くらい）あるけど、法律で決められていて捕まったら更に時間がなくなるから、私は走らないな。</p> <p>C15 おじいちゃんに会いたいから走りたい気持ちもあるし、法律で決められているから走ってはいけない気持ちもあるから 50%ずつかな。</p> <p>T9 心の数直線を先生の提出箱へ提出してください。（全員の提出を確認後）友達の心の数直線を見て、理由を聞いてみましょう。</p> <p>※C13～C15 と同様の反応。</p> <p>T10 いろいろな思いがありますね。お父さんは、その後どうしたのでしょうか。お話の続きがあります。</p> <p>C16 きっと、このお父さんだって走りたいって思ったはずだよ。</p> <p>T11（最後まで教材を提示した後）お父さんは、涙を流しながらどんなことを思っていたのでしょうか。</p> <p>C17 最期に会えなくて悲しい。</p> <p>C18 しかし、法を破ってまでして来たとしても、おじいちゃんは喜ばなかったと思う。</p> <p>C19 法を守り抜いてよかったんだよね。</p> <p>T12 最期に会えなくて残念という気持ちはあるけど、後悔はしていないということかな。</p> <p>C20 きっとそう思っていると思う。</p> <p>T13 法を守ったお父さんが大切にしている考えとはどんなことでしょうか。ピラミッドチャートの下段①に、お父さんが大切にしている考えとは何か、思いつくこと全て書きましょう。</p> <p>C21 どんな理由があろうと、自分勝手な都合で法律を破ってはいけません。</p> <p>C22 おじいさんを悲しませたくない。</p> <p>C23 もしあの時、路側帯を走って自分が事故を起こしたら他の人の命を落とすことになっていたかもしれない。絶対にそんなことはできない。</p> <p>C24 法律は、全ての人の命を守るためにあるんだ。</p> <p>C25 法律もきまりも同じだ。自分勝手な行動で、人の命を奪ったり悲しい思いをさせたりしてはいけません。</p> <p>T14 お父さんが大切にしている考えについて、みんなで話し合しましょう。</p> <p>※C21～C25 と同様の反応。</p> <p>T15 友達の考えを聞いて、とても納得した考えはどんな考え方ですか。また、それはどうしてですか。ピラミッドチャートの上段②に書きましょう。</p> <p>C26 「自分勝手な都合で、法律を破ってはいけません」という考えに納得した。この場合、家族が危篤だからといって路側帯を走ったとしたら、他の人も危篤だから走ってもいいということになり、みんなが自分勝手な理由で法を破ったら、本当に使わなければならない人（救急車）が通れず、命を落とすかもしれないから。</p> <p>C27 「法律もきまりも、全ての人の命を守るためにある」という考えに納得した。もし自分や家族が救急車に乗っていて、路側帯を通りたいと思っても法律違反</p>	<p>○全員の心の数直線を一齐に提示した後、指名した児童の心の数直線をテレビに映して、全体で共有する。</p> <p>○自分の考えと父の考えを比較しながら聞くよう促す。</p> <p>○涙を流す父の心情を問い、最期に会えなかった無念さや法を守ったことへの思いを感じ取らせる。</p> <p>○父の大切にしている考えとは何かを、ピラミッドチャートの下段①の部分に思いつくこと全てを記入させる。</p> <p>○「どうしてそう思うの？」「それはどういうこと？」などと問い返し、話し合いを深めさせる。</p> <p>○話し合いの中で、法律で決められていなかったら父は破っていたと思うか問い返し、きまりも同様であることに気付かせる。</p> <p>○様々な考えが出された後、納得した考えとその理由について問い、ピラミッドチャートの上段②に記入させる。</p>
-------------------------------	--	---

<p>4 価値について大切だと分かったことをまとめる。(3分)</p>	<p>の人が事故を起こして通れなかったら助からないと悲しい。他の人にも言えることだと思うから。 T16 今日、みんなで話し合っただと気付いたことはどんなことですか。</p> <p><b>&lt;まとめ&gt;</b> 法やきまりは、自分や他の人の命や安全・安心な生活を守るためにあるから。</p>	<p>○課題に立ち返り、価値について考えを交流する中で、大切だと気付いたことを取り上げ、まとめへと繋げる。</p>
<p>5 価値のよさに気付く。(3分)</p>	<p>T17 皆さんにメッセージが届いています。こちらをご覧ください。 ※日常生活で安全に過ごせるように声を掛けたり行動したりしている6年生の姿を見て、感謝する下学年からのメッセージを視聴する。 C28 自分たちがやっていることは、学校みんなが安心して過ごせるように大切なことなんだな。 C29 これからも、みんなが安全に安心して過ごせる学校にしていきたいな。</p>	<p>○下学年からの感謝のメッセージビデオを視聴し、きまりを守ることで安全で安心な生活が維持され、全校のみんなが気持ちよく過ごせるよさに気付かせる。</p>
<p>6 振り返る。(7分)</p>	<p>T18 今日の学習の振り返りを書きましょう。</p> <p><b>&lt;振り返り&gt;</b> ①今日の道徳で、あなたがとても大切だと納得したことは、どんなことですか。 ②今までの自分やこれからの自分の姿について書きましょう。</p>	<p>■法やきまりの意義について理解したことや今までの自分を振り返り、これからの自分の姿について記述している。 <b>【振り返り】</b></p>

#### (4) 本時の評価

〔評価方法〕 ノートの振り返りの記述

〔評価規準〕 ①法やきまりの意義について理解したことを記述している。

【多面的・多角的な見方へと発展させているか】

②今までの自分を振り返り、学んだことをこれからの生活に生かそうとしている。

【道徳的価値の理解を自分自身との関りの中で深めているか】

〔B評価の例〕 ○法やきまりを守ることは、他の人の命を守ることに繋がると分かった。

今までは、単にきまりだからとか、法律で決められているからというくらいにしか思っていなくて、ちょっとぐらい廊下を走ってもいいだろうと思うこともよくあった。

これからは、自分が「つい」「ちょっとぐらい」と思ってやったことで相手をケガさせたりひやっとさせたりすることがないように、きまりを守って生活をしていく。

○法もきまりも、人の命や安全な生活を守るためにあると分かった。

今までは、正直、みんなやっているしとか、ちょっとくらいいいじゃんと思って廊下を走ったり道路を横断したりすることがあった。

これからは、周りの人が「危ない！」と、いやな気持ちになったりケガをさせたりしないように、みんなが安心して生活できるように、まず自分がきまりを守って生活していきたい。

#### 5 参考文献

- ・「学習指導要領解説 特別の教科 道徳」文部科学省 2017
- ・「きみがいちばんひかるとき 6年」光村図書 2019
- ・「道徳性心理学」北大路書房 1992